

見なおそう!

みんなの健康

日本赤十字社和歌山医療センター
http://www.2.kankyo.ne.jp/nisseki-w/

No.13

県内初!! 最新型320列CT導入



循環器内科部医師
花澤 康司 (はなざわ こうじ)

認・評価するために撮影を行います。64列のCTでは、心拍に合わせて複数回に分割して心臓全体を撮影していました。

320列CTでは、1心拍で心臓全体が撮影できるため被ばく量が最大80%程度低減することが期待できます。また、1心拍で撮影が可能になったので、不整脈をお持ちの患者さんでもきれいに撮影することが可能になりました。

管内にカルシウムが沈着した状態です)や金属ステントの内部の確認・評価が難しく、どうしても必要な場合は、心臓カテーテル検査をせざるを得ませんでした。

しかし、今回当センターで導入した最新型320列CTには、超低線量でも高画質な画像を再構成

できる機能が新たに備わったので、従来の320列CTと比較しても診断能力が飛躍的に向上しています。

この最新型320列CT装置は、体への負担が少ない上に、しっかりと診断できます。患者さんにとっても、われわれにとっても強い味方になる頼りになる仲間と言えます。

この新しいCT装置を使用して、より良い診断、より良い治療が提供できるように努力してまいります。日赤和歌山医療センターに加わった、新しい仲間をよろしくお願ひ申し上げます。

平成28年9月から、近畿でもまだ3列しか導入されなかったCTを使用していました。

CTは、1列に1枚ずつ断面画像を撮影するため、1度に撮影できる枚数は、単純に従来の5倍になるため、撮影できる範囲が広がりました。

く低減されます。なぜなら、一度に撮影できる範囲が狭いと撮影範囲を重ねて(オーバーラップと言います)何回も撮影をしなければならなかったため、長時間X線を照射する必要がありました。

心臓のCTでは、主に心臓の形態、冠動脈(心臓に栄養を送る血管です)や冠動脈に挿入したステントの状態などを確認

CTとは、ご存知の通りX線を用いて体の内部の断面画像(いわゆる輪切りの画像です)を撮影して診断する装置です。現在まで当セン

撮影できる量が増えると、X線の被ばく量が増えるのではないかと考えられましたが、逆に患者さん

成19年から登場していますが、X線装置であるため、どうしても石灰化した血管(動脈硬化により血

1では16列と64列への被ばく量は大き

動脈に挿入したステントの状態などを確

成19年から登場して



これらの記事等は新聞社の承諾を得て掲載してまいります。